



第 32 号
2002年3月
岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



才地遺跡全景写真

右上：ガラス製勾玉（原寸大）

丘陵の急斜面につくられた弥生時代集落 —佐伯町才地遺跡—

才地遺跡は、岡山県東部、和気郡佐伯町小坂に所在します。遺跡のすぐ北には、タンチョウヅルの飼育で有名な岡山県自然保護センターがあります。岡山県古代吉備文化財センターでは、美作岡山道路建設にともなって、約8,000㎡を対象に、平成12年5月から平成13年12月まで、発掘調査を行いました。

遺跡は、標高70～90mの丘陵斜面に位置し

ており、北～北西側斜面が調査対象地とされました。発掘の結果、弥生時代の中期後半～後期前半（今からおよそ2,100～2,000年前）の集落と、古墳時代後期の古墳4基が見つかりました。古墳は、6世紀後半から7世紀ごろ作られ、埋葬施設にも特徴があることがわかりましたが、今回はとりわけ特徴的な、弥生時代の集落について取り上げてみたいと思います。



北側斜面につくられた住居群

弥生時代のおもな遺構として、竪穴住居、土壙や溝などが確認されました。竪穴住居は、丘陵斜面に、階段状に横に連なるように作られており、そして、1軒が単独に存在するものばかりではなく、多くは数軒の住居が重なり合った状態で検出されました。また、平地で見つかる竪穴住居と異なるのは、斜面の高い方を深く掘り込んで平坦な床面を形成している点で、そのために、斜面を掘り込んだ側の壁が1m近くある住居もあります。住居の平面形は、隅丸方形、方形などがあり、斜面下側の床面は、後世の土砂の流出などで、崩れて残らないものが多くありました。

下の写真は一辺が約4mの平面形が方形の竪穴住居で、2軒が重なり合って検出されました。1軒の住居が火災を受けて焼失したあと、写真右側の住居をあらたに作っており、その重複部分の床には、貼り床（粘性のある土をたたきしめた）状態を確認しました。このように、この遺



2軒が重複した竪穴住居（左側が古い）

跡では、住居の建て替えや拡張ということが、弥生時代の比較的短期間のうちに何度も繰り返されていたようです。建て替えや拡張を含めると、その住居の数は、約140軒にもなります。

出土した遺物には、弥生土器のほか、石包丁や石斧、石鏃などの石器、また鉄斧や鉄鏃などの鉄器があります。また、ガラス製勾玉（表紙写真）1点、水晶玉1点、管玉2点と、当時希少であったと思われる玉類が出土していることも注目されます。そのほか、住居に石器の加工の際に出る石屑が残された状況や、石器の材料となるサヌカイトを丁寧に集めて置いていた状態（下の写真）が見つかり、集落の中で石器を製作していたこともわかりました。

今回の調査で、この地で弥生時代の人々が生活していた跡を確認したのですが、とくに、その占地に、この遺跡の特徴が認められます。立地するのが丘陵急斜面であり、住居が確認されるのは比較的傾斜の緩い斜面であります。現在でもその上り下りが大変な土地であります。また北側斜面に位置し、遺跡地のすぐ西側に別の丘陵がせまっていることもあり、冬になると、日照時間の短い土地でもあることがいえます。

このような自然の環境の中でも、何度も住居の建て替えや拡張を繰り返しながら生活することが必要であったようで、弥生時代の人々が、一時期なぜこの土地を利用していたのか、周囲の遺跡や環境を含めて考えることが重要であると思われます。（松村さを里）



置かれた状態で見つかったサヌカイト

都の風運ぶ^{りよくゆうとう き}緑釉陶器 —岡山市川入遺跡—

川入遺跡は足守川左岸に位置する、弥生時代前期から室町時代にかけての集落遺跡です。

とりわけ、平安時代の^{ほうまん}法万寺調査区では多くの遺構や遺物が発見され、そのなかでひと際目をひくのが、池状遺構（東西11m、南北40m以上、深さ0.2m）から出土した完形品を含む数十点もの緑釉陶器です。これらの椀や皿は質も良く、出土量も県下最多です。

緑釉陶器とは、土器の表面に^{うわぐすり}釉薬をかけて緑色の光沢をもつように焼いた陶器です。釉薬の中には銅や鉛が使われていて、化学変化により緑色の輝きを発します。この陶器は、高度な技術を持つ、限られた工房でしか作られていなかったことが知られており、庶民の日常生活には無縁の貴重なものでした。

今回出土した緑釉陶器は、その丁寧な作りや形から平安時代初めの京都で作られたものに限られています。このことは、都との密接な交流

を示しています。緑釉陶器は、^{かんが}官衙や寺院などの公的な遺跡以外でまとまって出土する例が少ないこと、当時の川入遺跡は備中国の海岸近くにあったことなどから、吉備津にその名を残すように、港湾に関する施設があった可能性も高まりました。（三宅健夫・関 幸代）



池状遺構出土の緑釉陶器

県内初の完形の銅鐸形土製品 —熊山町谷の前遺跡—

谷の前遺跡は赤磐郡熊山町可貞上にあり、平野部を西に望む、丘陵裾部の緩斜面に位置する弥生時代後期の集落跡です。集落内からは、竪穴住居や土壙などが多数発見されました。そして、今回紹介する銅鐸形土製品も同時期の土器溜りの中から出土しています。

銅鐸形土製品の出土例は、県内では過去7例あり、今回の発見が8例目です。しかしながら、完形のものとしては県内初となります。また、時期は形態や土質、伴出土器との関係などから弥生時代後期のものであると推定されます。

この銅鐸形土製品は、青銅製の銅鐸と同じく紐や鱗が表現されており、その大きさは、高さ56mm、幅45mm、厚さ23mmを測ります。紐孔は1個、舞孔は2個認められます。外面の色調は黒褐色で、器面に文様は表現されていませんが、紐や鱗の造形は、あたかも飾耳の付いた銅鐸を模したようでもあります。（若林 学）



銅鐸形土製品 (1/1)

センターの年間事業（平成13年度）

調査第一課

平成13年度の調査第一課は、第一係10名（うち岡山市から1名）、他に文化課兼務・岡山市派遣各1名、第二係9名の計21名からなり、埋蔵文化財の普及啓発、報告書作成の整理と刊行、発掘調査（試掘・確認）、分布調査、資料の貸し出しなどの業務を行いました。このうち、資料の貸し出し業務の一部を紹介しますと、ここ5年間の貸し出し平均件数は、写真関連が54件（403点）、遺物が28件（899点）という数値に落ち着いています。

さて、普及啓発事業では8月4日（土）に第14回目の「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」、同じく第14回目の「埋蔵文化財担当職員研修会」を市町村教育委員会の協力を得て、岡山県生涯学習センター大研修室にて行いました。

発掘調査事業は、本誌8頁に掲載した遺跡（2～15）を第一係が対応しました。全面調査（2・3・5・6）と試掘・確認調査（4・7～14）を14件、第二係は国体に関連する津島遺跡の確認調査（16）を1件行い、2係で15遺跡13,303㎡を実施しました。

報告書は、岡山自動車道4車線化（服部遺跡ほか）、広域農道整備（水口遺跡）、国道179号バイパス建設（立石遺跡ほか）、国道313号改良（下湯原B遺跡ほか）、県道磯上備前線改築

（山崎古窯跡）、主要地方道加茂奥津線改築（福見口遺跡ほか）、矢掛町圃場整備（神之脇遺跡ほか）、7冊を刊行しました。

報告書の整理は、岡山県陸上競技場改修・国体関連整備（津島遺跡）、ふるさと農道緊急整備（岡東高塚遺跡ほか）、県立図書館建設（岡山城二の丸跡）、広域農道整備（水口遺跡）、主要地方道佐伯長船線改築（前内池遺跡ほか）、主要地方道加茂奥津線改築（福見口遺跡ほか）、県立岡山病院建て替え（鹿田遺跡）を行いました。

県内遺跡の詳細分布調査は4年目にあたり、9月から関係市町村教育委員会ならびに県内研究者の協力を頂き、備前市、和気郡、邑久郡、苫田郡、勝田郡、英田郡の1市15町5村の現地踏査を実施しました。2月末の集計では450件前後の遺跡が新たに発見されています。



鬼城山北門の発掘調査（南東から）



津島遺跡 T60の水田土層断面（南西から）

〈史跡鬼城山〉（鬼ノ城）

総社市教育委員会は、古代山城の整備に先立ち平成6年度から発掘調査に着手しています。東門に始まり、角楼・西門・南門を相次いで発掘調査し、12年度末までに北門の所在も確認していました。本年は基本計画に沿って、高石垣保存修理・城壁内側敷石などの整備箇所の事前調査が実施されることとなり、当センターから総社市へ調査員を派遣し、測量・実測作業の指導、応援を行いました。（高畑 知功）

調査第二課

平成13年度の調査第二課は、昨年に引き続き2係18名で国土交通省苫田ダム関係の仕事に携わってきました。1係9名と2係6名の15名は奥津町の現場で、2係の3名はセンターにて報告書作成作業に従事してきました。

今年度の調査は、昨年に引き続き久田堀ノ内遺跡と新たに夏栗遺跡の全面調査、杉正宗遺跡の第1次調査・全面調査、箱E遺跡、下黒木遺跡、久田神社古墳の第1次調査を行いました。

久田堀ノ内遺跡は、残っていた館の南西部分5,190㎡の調査を行い、館を取りまく三条の堀、堀内外の掘立柱建物、土壙、備前焼の大甕を使用した土壙墓など多くの遺構を検出しました。外側の堀は、南西部では吉井川に直行するようで、西側には堀は存在せず吉井川がその役を担っていたものと思われます。

夏栗遺跡は、奥津町久田下原字夏栗にあり、旧奥津町役場・農協のあった南側にあたり、夏栗の集落、水田、畑、竹藪、墓地などがあったところです。一昨年度まで調査を行ってきた久田原遺跡の北側に位置しますが、久田原遺跡、久田堀ノ内遺跡に比べて数m高い河岸段丘上にある遺跡です。遺跡の面積は4万㎡におよび、今年度はその四分の三近くの約3万㎡の調査を行ってきました。

主な遺構は、近世の土壙墓群、中世から近世にかけての掘立柱建物群、土壙墓、土壙、古代の竪穴住居数軒、掘立柱建物群、溝、火葬骨を



夏栗遺跡C4区No.74竪穴住居（西から）

伴う蔵骨器、古墳時代中頃以降の竪穴住居30軒、溝、弥生時代後期の竪穴住居10軒、遺跡の北端から南端まで延長200m以上あり、最大幅4m・深さ2.5mを測る大溝、縄文時代晩期の土壙などが検出されました。これらの遺構は、いわゆるクロボク層を切って作られており、検出は困難を極めました。遺物としては、竪穴住居内から大量の土器を初め、勾玉、ガラス玉、砥石、鉄片などが出土しています。遺構は見られませんが縄文時代後期の土器片、石器、早期の土器片なども何点か出土しています。

杉正宗遺跡は、奥津町杉正宗にあり、夏栗遺跡の上流約4kmで、吉井川の東岸に位置します。この遺跡は、工事中新発見の遺跡で、備前焼摺鉢、鉄滓、土師器などが散布していたため急速第1次調査を実施し、引き続いて全面調査を行いました。中世の掘立柱建物1棟などが見られました。

箱E遺跡は一昨年調査を行った東側部分で、未買収地で調査が行えなかった部分の第1次調査を、下黒木遺跡も第1次調査を行い、いずれも来年度の調査範囲を確定しました。また久田神社古墳の第1次調査を行いました。これは古墳ではなく、集落跡がのっているものと思われる。



夏栗遺跡弥生時代後期の大溝（南から）

報告書作成作業は、3名が平成7年～10年まで行ってきた河内構遺跡ほか、11遺跡の整理を行いました。これは来年度刊行の予定です。

（伊藤 晃）

調査第三課

本年度の事業

第一係

- ・美作岡山道路建設（発掘調査） 4月～12月
（発掘調査） 10月～3月
- ・旭川放水路（百間川）改修
（発掘調査） 通 年

第二係

- ・農免農道整備 （発掘調査） 通 年
- ・種見明戸線改築 （発掘調査） 通 年
- ・中山間地域整備 （発掘調査） 4月～6月
（確認調査） 6月～7月
- ・是里農道整備
北坂奥遺跡（報告書整理） 8月～9月

第三係

- ・吉備津松島線改築（発掘調査） 通 年
発掘調査概要

美作岡山道の調査は、和気郡佐伯町小坂の才地遺跡を昨年度から引き続いて実施したほか、赤磐郡熊山町可真上の谷の前遺跡と慶運寺遺跡を実施しました。

才地遺跡は昨年度と同様に、丘陵裾の比較的急斜面～緩斜面を段状に造成した部分を利用した、弥生時代中期後半を中心とする竪穴住居等が多数見つかりました。これらおもに斜面を利用するのみの単位集落の立地は、これまでほとんど類例もなく、今後の究明が期待されます（本報1～2頁参照）。谷の前遺跡は、中世の慶運寺跡の一部とその南側の現水田部分に広がる弥生中～後期の集落遺跡で、竪穴住居数10軒、土壙20数基等が見つっています。出土遺物は多数の弥生土器や石器のほか、金属製品（鉄斧・鉄鎌・銅鏃）や銅鐸形土製品（本報3頁参照）も出土していて注目されます。慶運寺遺跡は、慶運寺跡の北側に接する丘陵の尾根上とその南斜面の一部に、弥生後期の墳丘墓や段状遺構などと中世墓が新たに見つかりました。墳丘墓は約6×6mの方形で、墳裾には立石を整然と貼り付けてありました。埋葬主体は土壙墓と弥生時代後期後半の壺棺が見つっています。中世墓は、備前焼骨壺と羽釜1が確認されました。

旭川放水路の調査は、昨年度継続の百間川原尾島遺跡の残りとは百間川沢田遺跡の一部、そして百間川今谷遺跡を実施しました。後者は、約20年ほど前の調査で、弥生中期中葉のガラス滓を伴う土壙や掘立柱建物群が発見された地域の北～北東側にあたり、同時期の同種遺構数基（棟）や同末の建物数軒、また、弥生後期の重複した用水路や竪穴住居、古墳時代前期の大溝や竪穴住居などがみつっています。

農免農道の調査は、勝田郡勝北町上村の山ノ奥遺跡を実施し、独立丘陵の頂部から緩斜面にかけて広がる集落のほぼ全容を捉えることができました。検出された遺構は、標高約180～185m付近に多く、縄文時代の落とし穴4基をはじめ、弥生中期後半の竪穴住居8軒（拡張を含めれば17軒）、長方形竪穴状遺構15軒、段状遺構30基以上（うち柱穴列を伴い建物と認定できるもの9棟）、土壙墓8基（木棺痕跡有7）、土壙6基、溝2条などと、中世の造成面に数棟の建物や小鍛冶炉2基、土壙墓1基などがあります。遺物は多量の弥生土器・石器のほか玉2点、鉄滓2点などが出土しています。石器は110点を超し、その約8割を磨製石器が占め、さらにその7割以上が未製品でした。これらのことは、長方形竪穴状遺構の占める割合の多さとともに、集落の性格を考るうえで、注目されます。

種見明戸線の調査は、真庭郡湯原町見明戸の広段城山城跡とその下部の弥生から古墳時代の集落跡を実施しました。本年度調査範囲内では明確な城の遺構は発見されませんでした。が、竪



広段城山城跡下層の弥生住居（北から）

穴住居6軒以上、段状遺構20数基、袋状を含む土壇20基以上等があり、弥生後期土器を中心として整理箱40箱を超す遺物が出土しています。

中山間整備は、阿哲郡哲西町上神代狐穴遺跡の調査と同神郷町油野大谷の京坊たたら遺跡の確認調査を実施しました（前者は前報1～2頁参照）。後者は、2か所に中世と近世の製鉄遺跡が確認され、来年度に本調査を行う予定です。

吉備津松島線の調査は、岡山市川入の川入遺跡を実施し、弥生～古墳時代ではとくに法万寺調査区で、集落の縁辺の溝多数、木器や完形を含む土器多数が出土した井戸数基が確認され、また100個体を超す小形手捏土器の出土等もありました。飛鳥～奈良時代では、微高地端の護岸施設（掛無堂）や8棟以上の掘立柱建物群や溝（法万寺）の検出と、盤状木製品（ふね）や完形の円面硯の発見が注目され、何らかの公的施設（例えば港湾施設）の存在が想定されま



川入遺跡の奈良時代建物群（上空西から）

す。平安時代は、50個体を超える良質の緑釉陶器（椀・皿）の出土が特筆され（本報3頁参照）、中世では、鎌倉時代の小規模な建物群の存在や多数の宋銭の出土、南北朝～室町時代の堀割の存在や多数の備前焼（15C中頃）と炭化米（麦・雑穀を含む）の出土があります。（柳瀬昭彦）

なつくり 夏粟遺跡の現地説明会

本年度も昨年に引き続き、苫田ダム建設に伴う発掘調査の現地説明会を「岡山教育の日」協賛事業として、夏粟遺跡を対象に、11月3日に行いました。

本年度の現地説明会は、見学者の方に、よりわかりやすく、親しみやすくを目標としました。現地では、簡単な発掘体験を採り入れました。雨の降りしきる中の現地説明会ではありましたが、傘を放り出し発掘体験を自ら進んで行われる人もみられ、体験する楽しさを味わっていただけでした。そのほかに現地では、解説板を増やしたり、建物に柱を実際に立てたりして、わかりやすい展示につとめました。見つかった遺構・遺物の説明に加えて、発掘のはじめから終わりまで、さらにその後の報告書ができるまでを解説し、発掘調査の方法がわかるようにも工夫しました。これも、わかりやすいと評判でした。テントでは遺物にじかにふれてみるコーナーを設けました。じかに手に触れると質感や重みを感じることもでき、見学するだけでは味

わえない発見があります。

さらに、資料をカラー化したり、絵や写真を多用したりする工夫も行いました。現地説明会や埋蔵文化財の仕事がこれまで以上に、見学者の方に近づいたのではないかと思います。

今後ともさらなる工夫をしてゆきたいと思っています。おいでになったことのない方は、現地説明会に是非一度足を運ばれ、古代のロマンの息吹を感じてみませんか。（河合 忍）



雨中での発掘体験の様子

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧 (平成13年度)

遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1 県内遺跡詳細分布調査	岡山県内	遺跡保護・保存	分布	旧石器～中世	4.1～3.31	県内全域
2 鹿田遺跡	岡山市鹿田本町	県立岡山病院建て替え	全面	古代～中世の集落	4.1～9.28	1,950㎡
3 総社遺跡	総社市総社字北国府	国道180号総社バイパス建設	全面	弥生時代～近世の集落	4.1～3.31	6,261㎡
4 北津手遺跡	総社市北津手	国道180号総社バイパス建設	全面	弥生時代～中世の集落	7.1～9.30	3,002㎡
5 金井戸遺跡	総社市金井戸	国道180号総社バイパス建設	1次	包含層確認	2.22～2.23	15㎡
6 金井戸遺跡	総社市金井戸	国道429号改良	全面	縄文時代～中世の集落・水田	1.7～3.20	1,180㎡
7 山北一丁田遺跡	津山市山北	岡山県立津山工業高等学校体育館整備	確認	古墳時代～中世の集落	5.7～5.14	234㎡
8 笠岡本町遺跡	笠岡市笠岡浜田	主要地方道倉敷笠岡線道路改築	確認	包蔵地確認されず	6.11～6.13	101㎡
9 樋ノ鼻遺跡	真庭郡久世町中原樋ノ鼻	一般県道日木大庭線改築	試掘	弥生時代・古墳時代・中世の集落	6.18～7.2	300㎡
10 野遺跡	真庭郡川上村大字東茅部	一般県道東茅部下福田線道路改築	試掘確認	包蔵地確認されず	8.20～8.27	218㎡
11 猿喰池殿治跡遺跡	赤磐郡熊山町奥吉原	町道奥吉原線改良工事	確認	古墳時代の製鉄関連	9.4～9.19	257㎡
12 神之脇遺跡	矢掛町南山田	矢掛町園場整備	確認	弥生時代～中世の集落	11.5～12.21	240㎡
13 上山遺跡	岡山市大供	岡山労働基準監督署庁舎新営工事	確認	弥生時代・古代～近世の集落	11.19～11.27	56㎡
14 岡山城内堀石垣	岡山市九ノ内	県立図書館建設	確認	岡山城内堀石垣	1.21～1.29	150㎡
15 鬼城山	総社市奥坂	鬼城山整備事業	整備	古代の山城	5.1～8.31	
16 津島遺跡	岡山市いずみ町	国体関連整備	確認	弥生時代～近世の集落	9.5～10.5	150㎡
17 久田堀ノ内遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文時代～近世の集落 中世の館	4.1～9.20	5,190㎡
18 夏栗遺跡	苫田郡奥津町久田下原字夏栗	苫田ダム建設	全面	縄文時代～近世の集落	4.1～3.31	29,988㎡
19 杉正宗遺跡	苫田郡奥津町杉正宗	苫田ダム建設(国道179号線改良)	全面	中世の集落	9.20～12.10	585㎡
20 下黒木遺跡	苫田郡奥津町黒木	苫田ダム建設	1次	古墳時代～近世の集落	6.8～7.3	350㎡
21 箱E遺跡	苫田郡奥津町箱	苫田ダム建設	1次	縄文時代・弥生時代の散布地	7.24～8.9	120㎡
22 杉正宗遺跡	苫田郡奥津町杉正宗	苫田ダム建設(国道179号線改良)	1次	中世の集落	9.20～10.4	220㎡
23 久田神社遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	1次	弥生時代の集落か	1.17～1.25	70㎡
24 上神代狐穴遺跡	阿哲郡哲西町上神代字狐穴	県営中山間地域整備事業(北備地区)農道千子線建設	全面	古墳時代の製鉄関連	4.1～6.8	850㎡
25 才地遺跡	和気郡佐伯町小坂	美作岡山道路建設	全面	弥生時代～古墳時代の集落	4.1～12.31	4,150㎡
26 百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島	旭川放水路(百間川)改修	全面	縄文時代～近世の集落	4.1～5.11	310㎡
27 百間川今谷遺跡	岡山市今谷	旭川放水路(百間川)改修	全面	縄文時代～近世の集落	5.1～3.31	4,138.5㎡
28 百間川沢田遺跡	岡山市高屋	旭川放水路(百間川)改修	全面	縄文時代～近世の集落	11.29～12.25	231.5㎡
29 川入遺跡	岡山市川入	一般県道吉備津松高線改築	全面	弥生時代～中世の集落	4.1～3.31	12,600㎡
30 山ノ奥遺跡	勝田郡勝北町上村	農免農道整備事業(上村山形地区)	全面	弥生時代の集落	4.1～3.31	5,530㎡
31 広段城山城跡遺跡	真庭郡湯原町見明戸	一般県道種見明戸線改築	全面	弥生時代の集落 中世の城郭	4.1～3.31	4,920㎡
32 谷の前遺跡	赤磐郡熊山町可真上	美作岡山道路建設	全面	弥生時代の集落	10.1～1.31	1,300㎡
33 慶運寺遺跡	赤磐郡熊山町可真上	美作岡山道路建設	全面	弥生時代の墳丘墓 中世の墓域	1.1～3.31	1,570㎡
34 京坊たたら遺跡	阿哲郡神郷町油野大谷	県営中山間地域整備事業(北備地区)農道油野五反田線建設	確認	中世～近世の製鉄遺跡	6.11～7.31	565㎡
35 小丸遺跡ほか	赤磐郡熊山町弥上	美作岡山道路建設	確認	中世の水田か	2.1～3.31	200㎡



編集・発行
岡山県古代吉備文化財センター
 所在地 〒701-0136
 岡山市西花尻1325-3
 TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>
 ●交通案内
 ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
 ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
 開館時間 AM9:00～PM5:00
 休館日 土曜日・日曜日および祝日・年末・年始